

明日の目的のために今日を生きているのではない。今日が全部だ。
安田 理深

くーがくーぶつ 遇我遇仏 gu-ga gu-butsu

No.18

編集 日豊教区教化委員会
発行 真宗大谷派日豊教務所
〒879-0471
大分県宇佐市四日市1425-1
電話 (0978) 32-0050
Fax (0978) 32-0092



耶馬溪組 珀明寺
渋谷 圓

「助かりたい」と望む心がなかったら、宗教の世界はないのでしょうか。助かりたいと思うことが自分の力でどうにかなるのだったら、神や仏に祈ったりはしないのでしょうか。助かりたいと思う心と自分の力ではどうすることもできない現実を直面したとき、神や仏の力を頼って、神仏に祈るのです。ところが最近報じられている事件の中には、その宗教の粋を超えてしまったような、猟奇的な事件が報じられている。

病気の場合、初期の段階では、医師の力を信じ、医学技術を信じ、薬の効果を信じて治療を続けます。幸いにして早期発見であれば、治療の効果で、死の不安から解放されます。しかし末期ともなれば、奇跡でも起こってほしいと思う気持ち

ちで、神仏に祈る心も起こりません。しかし人間の力の及ばない世界のことはどうしてみようとないことを知ることになります。

助かりたいという気持ちに對して助けようとする働きがあると人間は考えます。救済という言葉は、助かりたい側と助けようとする側とで成り立つ言葉であるといってもいいのでしょうか。

ところがここが大変やっかいな問題があるのです。そのやっかいな問題というのは助かったということが目に見え、証拠がはっきり示されれば助かったということが分かり易いのですが、目に見えない場合、助かったということがどのようなことなのか分からないのです。

たとえば、ガンを早期に見つけて治療した結果、ガン細胞が無くなった。術後いろいろな検査をしても問題がない。5年10年経過しても再発がないというとき、そういう場合は助かったと思えるのです。しかし、医学的にはつきりとした結果が出てこない場合もあります。そのときは「し

ばらく様子を見ましよう」ということになります。

病気の場合は結果が出るまで「しばらく様子を見る」ことも、必要な医療行為といえるのでしようが、やっかいなのは、目に見えない世界、人間の思いが及ばない宗教の世界についてです。この目に見えない不安の世界が宗教のたらく世界なのです。そして目に見えない世界をいいことにして、さまざまな宗教がうごめくのです。

親鸞聖人の世界も、助かりたいという気持ちと助けようとする働きが出発点になっていることはいうまでもないでしょう。つまり救済ということが土台になっている。

けれども親鸞聖人の救済というのは、迷いから解放される方法を探すとか救い主にすがるといふのは、すこし違うように思われます。親鸞聖人はそのような思いで仏に祈ったのではないようです。

親鸞聖人は八十六歳という人生の最晩年に『尊号真像銘文』を著しておられる。その『銘文』の冒頭、『大経』の四十八願文を釈する文の最後

に、「自然というは、行者のはからいにあらずとなり。」と書かれている。この言葉は『末燈鈔』やほかの著作でも使われていることが、知られています。

宗祖の晩年の心の様を推察すると、「自然法爾」という世界に、深くうなずいたお姿が想像されます。善鸞の義絶（聖人84歳）、「彌陀の本願信ずべし」の文の感得（85歳）、このような体験を通して「自然法爾」の世界が開かれたのでありましようか。「法爾」というのは、如来の御ちかいなるがゆえに、しからしむるを法爾という。」ここに親鸞聖人の救いの世界があるのだと私はいただいています。

救済ということをおもうとき、難民の救済、飢餓からの救済、医学的救済など今日の重い課題があることは言うまでもありません。それらのことを思いながら、「宗教からの解放」ということを問題にされた某師の言葉を思い出しました。「自然というは、行者のはからいにあらずとなり」と。これは宗教からの解放なのだと思えます。

教区会／教区門徒会（臨時会）報告

先ず、教務所長（別院輪番）より議員へ、8月20日付にて全寺院へ急告されていた「四日市別院本堂向拝の北側面の木部腐朽による屋根瓦等の一部崩落について」、参詣者の安全確保を要とする緊急な案件であったことから、別院責任役員会・常議員会（8月27日）、並びに、教区会参事会（9月1日）の承認を得て、崩落した向拝箇所 of 応急修理並びに参詣者の安全を確保するための外柵工事を行った旨が報告された。

その「外柵」が出来た事に伴い、正面の階段が使用できなくなるといことから、特に別院報恩講等、「多くの参詣者が一度に出入りされる際に安全面の配慮が必要ではないか。」との提案が別院責任役員会・常議員会にてなされたが、既に外柵の緊急工事にて今年度別院から支出できる上限額を支弁していることから、教区会参事会・教区門徒会常任委員会との協議を経て、仮設階段設置経費を2009年度教区特別会計から支出する件について教区会・教区門徒会が招集された。

両会とも忌憚の無い発言がなされ、特に安全面に配慮するという点では異句なく、提案どおり可決して閉会した。

※なお、その後、別院報恩講に間に合うよう仮設階段設置の工事に入り、11月中旬に工事が完了しました。

以上

第1回 育成員研修会

11月5日、日豊教区会館にて第1回育成員研修会（教学教化部門主催）が開催された。テーマは「われらは七百五十回御遠忌をいかにして迎えるか」。参加者は各組から31名。

内容は、①宗祖七百回御遠忌記念講演LP聴聞を受けて、御遠忌へ向けての取り組みと話し合い。②出張講座「真宗の解放論」(時代社会部門)を開催し、男女平等の教団づくりについて問い考える。

約1時間にわたり曾我量深師の『信に死し願にいきよ』のLPを聴聞し、参加者からは「久しぶりに曾我量深先生のテープを聞くご縁があり、新たに気づかされることがあった。」「今聞いても斬新な話だと思う。」「多くの人が聞ける機会があると良いのではないか。」との喜びの声もあり、また「聞き取りにくく、肉声よりも疲れる。」との意見もあがった。

問題提起として、江本忍氏（中津組長仁寺）、大友和彦氏（大分市組善巧寺）両名から発題がなされ、二組の状況とそれぞれの思い、組内の各寺の温度差など、印象的で課題に残ることが多かった。

日程内にもたれた出張講座では、吉田雅子師（時代社会部門委員、京都組恩高寺）より、男女平等の教団づくりについてお話いただいた。

宗議会議員選出

このたび任期満了に伴う、日豊選挙区の宗議会議員選挙が行われ、二名の候補者が当選を果たした。なお、去る10月14日の宗議会において長久寺議員が議長に選出された。



京都組 通善寺
村上 大純 議員



大分市組 長久寺
長久寺 徳瑞 議員

各組親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会報告

宇佐組

10月19日(月)晴天のなか、宇佐組お待ち受け大会が四日市別院本堂で開催された。「真宗宗歌」、「信偈同朋奉讃」のお勤めの後、隈部悟教務所長より、「御遠忌は勤めるものではなく、遇い難き勝縁に、はからずもめぐり遇うて、御影向の聖人の前に召されるこの身の喜びを感じる場である。」といわれたの宮谷総長の言葉を交えながらご挨拶をいただいた。また、御堂了圓宇佐組長より「五十年に一度のご縁に遇わせていただき、お念仏の生活がいつそう深まることを願う。」とお話しがありました。

まず最初に、徳臺寺坊守此松清美さんの指揮のもと、住職、坊守、婦人会のメンバーによる「御遠忌テーマソング」『今、いのちに目覚めるとき』他2曲の歌声が参詣者全員の心を打ちました。

続いて、愚安亭遊佐氏による「三味線婆ちゃん」の一人芝居が演じられ、三味線婆ちゃんが様々な苦難、逆境のなかでありながらも、多くの人々と共にお念仏を飲んだ生活を送られ、その後、宗務総長であった暁鳥敏師との出会い、本願念仏に回心帰入した日々の相が三味線を交え、見事に演じられ、参詣者全員の心深くに響き涙を誘いました。「念仏は逆境のためにあるのではなく、念仏に生きる人は必ず逆境をのりこえる」という言葉がふと思ひ起こされま



田川組

10月24日(土)13時より、田川郡香春町町民センターにおいて、会場は参加者でほぼ埋め尽くされ「田川組お待ち受け大会」が開催された。

まず、開会アトラクション。金龍保育園(園長村上章公氏 赤小組通善寺住職)園児による太鼓演奏を披露。会場を盛り上げる。続いてコーラス。坊守グループの「カトレア」、住職を中心としたグループ「コーラボーレ」が御遠忌ソングを熱唱。華を添えた。

いよいよ、第一部の開会、大江憲成師(九州大谷短期大学長)による記念講演。テーマは「今、いのちがあなたを生きている」。そして第二部、九州大谷短期大学OBによる演劇「阿闍世」の逆害の果てにの公演。迫真の演技に会場の皆さんを魅了し圧倒した。また、涙を流す人もいた。全体を通して盛りだくさんの内容であった。

最後に実行委員長井上道昭氏(法光寺住職)より「願わくば、この会場にお集まりの皆さんと共に御遠忌におまわいしましょう。」とお礼の挨拶で幕を閉じた。

いよいよ迎える2011年親鸞聖人750回御遠忌へ向けての準備が整ったのではないかと思える大会であった。

長尾 宣明
(田川組香岳寺)



中津組・築上組合同

10月26日(月)、中津文化会館を会場として、中津組・築上組合同による、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け大会が開催されました。

講師に、同朋大学准教授の張偉(チャン・ウェイ) 師をお迎えし、560名の御同朋が集いました。

「海をこえて響くお念仏」の講題の中で、「文化大革命」という名のもとに、自ら受けた惨劇の体験を通して親鸞聖人のみ教えに遭遇し、心の闇と向きあえるようになったこと。被害者も加害者も共に救われていく本願念仏の道があることを力説されました。

「真宗宗歌」三番

海の内外のへだてなく
み親の徳の 尊さを
わがはらからに
伝えつつ み国の旅を
共にせん

という歌詞そのままの心が会場に流れ、静かで、温かい余韻の残る大会でありました。

江本 忍(中津組長仁寺)



御真影還座式 仏青参拝

9月30日、京都の真宗本廟（東本願寺）において、御真影還座式が執り行われた。およそ5年半に渡って行われた御影堂修復工事に際し、阿弥陀堂にご遷座されていた親鸞聖人の御真影が、この日再び御影堂へお戻りになられた。当日天候はあいにくの雨だったにもかかわらず、全国各地から一万人を超えるご門徒が参拝されていた。

日豊教区仏教青年会でもこの還座式に参拝するため、会員有志が上山をした。おそらく二度と立ち会うことの出来ないであろう厳かな式を目の当たりにし感動するとともに、目の前に迫った御遠忌への思いを確かめていた。



また、式前日の29日夜に行われた懇親会には、仏青会員だけでなく、京都在住の寺族や日豊教区に縁のある方々を含めた30人以上の方に参加していただき、予想以上の盛り上がりを見せた。上は50代から下は大学生までと幅広い世代が集まり、中には岐阜や滋賀など京都以外からわざわざ駆けつけてくださった方もおり、人のつながりの大切さを感じた懇親会であった。



東別院仏教入門講座

10月30日午後6時45分より、四日市別院本堂において東別院仏教入門講座が開催された。この講座は今年度で4年度目、通算で6回目になる。前年度に引き続き、田畑正久師（佐藤第二病院院長）を講師に迎え、「本当のしあわせとは」を課題にお話をいただいた。夕方から夜にかけて足下が暗いなか、30人近くの参加者が集まり熱心に耳を傾けていた。

「しあわせ」を正確に書くと「幸せ」ではなく「仕合わせ」、つまり仕事に出会うということである、というお話から始まり、「仏教にどうと仏さまからお仕事をいただく」という講師自身が出遇われた言葉を紹介された。そして、仏教における幸福とは何かということを、先人たちの言葉や具体例をもって分かりやすくお話いただいた。質疑応答の時間においても、仏さまから仕事をいただくということから、信心へと話が展開していき、さらに話が深まっていった。



田畑 正久師

次回の東別院仏教入門講座は2010年4月に、日豊教区仏教青年会の「花まつり」と合同で開催される予定。

コラム

今春より一年間、地区の区長を拝命した。「少子高齢化」並びに「若手育成」の為、三年前より同輩が名を連ね、いよいよお鉢が回ってきたのだ。

しかしまあ、田舎の区長はありとあらゆる行事と雑務に携わる。地区経理・農業・祭事・PTAから敬老会・道路工事からゴミ問題まで、要望と苦情・愚痴に追われる日々である。「最近の大病院の若い医師は患者の手を握らなくなった」と検査データを見るほうが、病気に対し、よりの確な診断ができるからだのだ。そうである識者の声だ。続けて、「患者の目を見ていないから、会話が下手。」

この半年、事有るごとに歴代区長宅に相談に行き、協力を求めた。重鎮の方々から先ず言われるのは、伝統と慣習、それから長者としての心掛けと住民感情、最後に出来るのが、中央より送られてくる資料と財布の話だ。

「余計なことはするな。それで全てうまくいく。」「文句を言う者は必ずいるが、気にしなくてよい。」「ただ有力者は敵に回すな。」これで何十年もやってきた。要は顔役の「顔色」を損なうな、ということだ。一番難しい。前任の同輩は言う。「話しにならない。改革はお説教のもとに潰される。これじゃ昭和八十四年だ。」と。

今年は民主党元年、政権が発足して二ヶ月が経過した。選挙前のマニフェスト、公約は、ことごとく雲行きが怪しい。無理もないかな。今の自分は特に痛感する。悪しき体制批判と改善資料、説明報告書だけでは、物事は前に進まない。何十年もからだに染み付いたものは、そう簡単には変わらない。伝統と慣習は決して軽いものではない。

ともかく新生日本丸は出航した。友愛の信念のもと、若く、新しい力で、苦難の荒波を乗り越えてもらいたいものである。

「バラバラでいっしょ」自分もあと五ヶ月！
白杵組 照寺 清原 正信



報恩講 一拝読文を通してー

大きな火鉢に炭を入れ暖をとりながら、お斎の順番を待つ。日常は、静けさのなかにあるお寺もこの数日間ばかりは声が飛び交いながら「甚だ盛なる祭」(ガスパル・ヴィレラ書簡)のような忙しさです。この日のために多くのご門徒が、清掃・餅つき・お華束やお磨きをし、報恩講をおむかえします。現在これだけ多くの人に関わりながら一緒になって作りあげていく仏事は、報恩講のほかにおいてないような気がします。

こうして今年も自坊では、真宗門徒にとって最も大切な行事である報恩講が、「例年の旧儀」として勤められます。

報恩講では、『御文』・『御文鈔』・『御俗姓』などが拝読されます。それは、「毎年不闕」、「今古退転なし」といわれるように、私たちが出遇うべき言葉として毎年欠かすことなく繰り返し、繰り返して読まれてきました。

無二の懺悔をいたし、一心の正念におもむかば

(『御文』第四帖 八通目)

時に『御文』は、「懺悔」という厳しい言葉で、自身の在り方、物事の考え方、生活姿勢といった自分の全体像を「あなたは、それでいいのですか。」と問いかけられます。そこには、「祭」といったイベント的な報恩講というよりも緊迫した状況のなかの報恩講であるような気がします。

確かにわが身のこととなるとなかなかな納得しないということがあります。しかし、お釈迦様や宗祖親鸞聖人の言葉を聞いて、どこまでそのことの意を受けとめているのか、曖昧なところで納得したことにはしていないだろうかなどと、問い尽くし、また疑問をもち、自分の姿勢を確かめ、そして新たな領きを通して教えとの出遇いがあるのではないかと思います。

そしてこのことは、勤行(声明)についても同じことがいえるのではないのでしょうか。

毎年の例時として、一七か日のあいだ、形のごとく報恩謝徳のために、無二の勤行をいたすところなり

(『御俗姓』)

『御俗姓』で語られる「無二の勤行をいたす」という報恩講での情景は、教えとの出遇いのなかで溢れて出た念仏の声でしょう。感動の勤行であったり、思い惑いながらの勤行であったり、自己へのいらだちの勤行であったりかもしれません。

報恩講での「無二の懺悔」と「無二の勤行」という厳しい言葉(呼びかけ)は、私自身の抱えている課題や問いなど様々なことがあきらかになっていく、そういう場として願われているように思います。

日田組浄満寺 渡邊 弘宣

婦人会各組役員研修

10月21日、婦人会各組役員研修会が開催された。テーマは「あなたと出あいたい、今、共に」。講師は寺本温師(長崎教区第2組真蓮寺住職)。

寺本先生の御法話の中で「形」と言う事の一つで、仏法に出あわなかつたら喜びも悲しみもわからない。仏法をいただき、自分の思いを大切にしたいのちのちが、あなたを守ってくれるという先生の御法話にうなづき、心のなかで実行に移し、念仏申すご縁をいただき、親鸞聖人の教えを学び進みたいと思います。(日豊教区婦人会副会長 高畑ヒロ子)

御遠忌讃仰事業 DVD学習会

「真宗伝播前、東九州の浄土教の歴史学習会」が10月20日、教区会館にて開催され、御遠忌讃仰事業DVD制作スタッフの他に本願寺派のご住職も含め約30名が参加した。

この学習会は宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌讃仰期間に実施される各教区「御遠忌讃仰事業」について、日豊教区では三部構成の記録映像(DVD)を制作して上映するという企画書のもとに準備が進められ、その第一部の「九州真宗の源流へー念仏の歴史をたずねる」の制作に向けた調査作業の中で、

東九州における真宗伝播の歴史を今一度学習し、その取り組みの成果を記録映像として残していきたいとの願いから開催された。

講師は大分県立歴史博物館より櫻井成昭師にご出講いただき、はじめに現在まで捉えられていた歴史の理解をみとめ直すことが目的の一つとしてあるとおさえられ、『往生要集』が日本浄土教展開の基礎となつてのこと。次に、浄土真宗の伝播の注目点として14、15世紀代の仏像を安置する真宗寺院が少なくなく、15世紀後半の本願寺派の拡大以前は、仏照寺流や仏光寺流などの門流が展開したとみられていること。最後に、浄土真宗寺院の門徒分布は、

散在する事例が多く、こうした状況が生まれた経緯は今後の研究課題の一つであるということなど、真宗伝播について細部に至るまで詳しく丁寧にお話いただいた。

この学習会はあと2回開催されるが、他にない希少な場である。我々一人ひとりの源流をたずねる学びとして、多くの方々に参加いただきたい。



櫻井 成昭師

敬弔【8月～10月】

ご生前のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 宇佐組 正法寺 前坊守 室 長 恵 美 様 (8月 1日寂)
- 佐伯組 宿善寺 前坊守 後 藤 衣 様 (8月 17日寂)
- 別府組 大智寺 前坊守 小 野 フジエ 様 (8月 19日寂)
- 竹田組 應現寺 前坊守 安 東 阿彌子 様 (8月 26日寂)
- 耶馬溪組 善正寺 前坊守 清 原 和 子 様 (8月 28日寂)
- 築上組 浄心寺 前住職 長谷山 一 弘 様 (10月 6日寂)
- 耶馬溪組 明圓寺 前坊守 長 野 睦 子 様 (10月 18日寂)
- 白杵組 立法寺 坊 守 橘 カ ヨ 様 (10月 31日寂)

行事予定

- 12月**
 1日 10:00 宇佐・中津・築上組婦人会別院奉仕研修
 10日 17:00 教区解放協議会委員学習会①*公開学習会
 (日豊教区会館)
 12～16日 四日市別院報恩講 吉本壽寛 師
- 1月**
 13日 14:00 女と男の寄り合い談義 *公開学習会
 29日 第2回育成員研修会 池田勇諦 師
 30～31日 大谷保育協会日豊支部 園長・主任研修会
 (別府 HOTEL 芙蓉倶楽部) 真城義麿 師
 教区解放協議会委員学習会②
 (菊池恵楓園) 菊池恵楓園報恩講 参拝
- 2月**
 3日 ハンセン懇第5連絡会 (日豊教区会館)
 13日 教区仏教青年会報恩講 (京都組善徳寺)
 予定 推連協常任委員一泊別院奉仕研修
- 3月**
 8～9日 教区坊守会声明講習会 (四日市別院)
 11～12日 教区解放協議会委員学習会③
 (玖珠郡九重町)
 12日 10:00 耶馬溪・別府・直入組婦人会別院奉仕研修
 13日 教区仏教青年会杯-Tツ大会 (佐伯市内)
 15～16日 教区安居 (日豊教区会館) 加来雄之 師
 24日 四日市別院春季彼岸会
 30～31日 声明基礎講座
 (日豊教区会館) 大場孝丸 師・小野豊徳 師
 中高生のつどい (中津組圓林寺)
- 下旬予定
4月
 4月予定 教区仏教青年会花まつり
 東別院仏教入門講座②
 (四日市別院本堂) 田畑正久 師

四日市別院報恩講 厳修

東別院 おとりこし
HO ON KO
報 恩 講
 2009年
 12月12日(土)～16日(水)

御参修 帰敬式(おかみそり) 15・16日

法話 吉本壽寛 師 (真宗本願教化指導)

◇祝前 7:00 ◇日中 10:00 ◇建夜 13:00 ◇初夜 19:00
 お勤めは12日の建夜より16日の初夜迄(13:00)まで

《御伝鈔拝読》
 上巻13日・下巻15日
 《期間中の催物》
 ・仏青報恩講バザー
 (11時30分ごろ、日中勤行が終わり次第開店)
 ・地元商店街出店 ほか

別院奉仕研修

- 大分組婦人会 (9月25日)
 参加者 48名
 講師 隈部 悟 輪番
- 築上組推進員一泊研修 (10月6～7日)
 参加者 6名
 講師 隈部 悟 輪番・池田 朋行 駐在教導
- 竹田・玖珠・佐伯組婦人会 (10月26日)
 参加者 63名
 講師 吉田 智照 師
- 京都組推進員・門徒会 (10月29日)
 参加者 37名
 講師 江本 忍 師
- 中津組 (11月6日)
 参加者 20名
 講師 池田 朋行 駐在教導

教務所人事異動

10月29日付で主事の人事異動があった。



着任 日野 浄信 主事 (本山教育部より)

京都教区出雲組真浄寺
1975年1月16日生

初めての教務所勤務となりま
す。ご迷惑をおかけすることが
あるかと思いますが、ご指導ご
鞭撻の程、宜しくお願い申しあ
げます。

離任 三輪 清文 主事 (本山組織部へ)

編集後記

企画委員としてこの一年を振り返り、他のメンバーや教務所員の方々にいつも助けられてきたと強く感じています。2010年、教区報に教区テーマポスターと、一つ一つメンバー一丸となって取り組んでまいります。(T)